

「未来をつくる」 山形県・飛島のチャレンジ

飛島(とびしま)は山形県で唯一の離島で、酒田市の沖合39キロの日本海に位置する周囲約10キロの小さな島です。酒田港から定期船で約1時間15分で到着します。定期船の本数は1日1往復(夏季は2〜3往復)です。

飛島の基幹産業は漁業と観光。飛島は渡り鳥の中継地として、春と秋の鳥の渡りの時期には多くのバードウォッチャーで賑わいます。また、大物を求める釣り客をはじめ、近年では花を見ながらトレッキングを楽しむ人も多いとのこと。昭和15年に最大1788人の人口を有したこの島も、人口流出と少子化が急速に進み、現在の人口は241人となっています。

しかし、今この小さな島で、島民とNPO、大学、行政などがひとつになって、活気ある未来をつくる取り組みが次々と生み出されています。その中心になっているのが平成23年に県と市のバックアップを受けて発足した「とびしま未来協議会」。協議会の構成団体は次のように多岐にわたっており、飛島に関わるキーマンが集まっています。



日本海に浮かぶ飛島は山形県で唯一の離島

《「とびしま未来協議会」の構成団体》

◆島内の団体

- 飛島コミュニティ振興会
- 飛島各地区区長・副区長・組長
- 飛島各地区漁業代表
- 山形県漁協飛島支部
- 山形県漁協女性部飛島支部
- 飛島観光協議会
- 酒田市立飛島小中学校
- 酒田市飛島診療所
- 酒田警察署飛島駐在所
- 飛島郵便局
- もちのきヘルパー会
- 合同会社 和楽
- 合同会社 とびしま
- 飛島ロマン

◆島の応援団

- 特定非営利活動法人 パートナリーシップオフィス
- 藻場再生研究クラブ
- とび魚だしプロジェクト
- 幻の山形天保そば保存会
- 東北公益文科大学

◆行政

- 酒田市
- 山形県

この協議会が、島の未来を考える合意形成の場として機能し、各団体の協働によって若者を中心としたさまざまなチャレンジが生まれています。

◎変化のきっかけは大学の夏合宿

飛島で島おこしのさまざまな活動が行われるきっかけになったのは、2001年に酒田市に開校した東北公益文化大学(日本で唯一の公益学の教育・研究を行う大学)の研究室が「公益自由研究」の夏合宿を飛島で開催したことにさかのぼります。

島の自然のすばらしさや、島民の暮らしの豊かさに感動した学生や教員が「飛島ふあんくらぶ」を結成し、漂流「ミ」を回収する「飛島クリーンアップ作戦」や、島内外の交流拠点となる「しまの家」を運営するなど、飛島で自然・歴史・文化・生活など



飛島は周囲10.2kmの小さな島



定期船「とびしま」

を学びながら「島づくり」の活動を展開してきました。こうして、新たな訪問者を迎えることによって島に変化が現れ始めたといえます。

◎さまざまな団体が「島づくり」に協力

他にも、飛島を愛するさまざまな団体が飛島の島づくりに協力しています。

- ・「NPO法人 地球緑化センター」(本部は東京都)が主催している「緑のふるさと協力隊」(若者が各地の農山村で1年間、地域づくりに取り組む活動)の受け入れ。
- ・酒田市のダイバーを中心に結成された「藻場再生研究クラブ」による、飛島の豊かな漁場を守るための、藻場環境の再生研究。
- ・「NPO法人 パートナリーシップオフィス」(本部は酒田市)による、飛島の漂着「ゴミ問題や地域おこしの取り組み」。
- ・本土から離れた飛島で、天保そばの原種栽培を行っている「天保そば保存会」が毎年開催している「収穫感謝祭」。

◎新たな取り組み

最近の動きをいくつか紹介します。

- ・協議会の取り組みの一つとして、島の玄関口・定期船発着場前にオープンしたカフェスペース「しまかへ」
- ・「しまかへ」(店長は飛島出身の女性)は、島民の気軽な交流の場となっています。



カフェスペース「しまかへ」

- ・「緑のふるさと協力隊」として島で活動した若者が、そのまま島に残り、「飛島ロマン」という若者グループを結成。休業中の民宿を借り受け、1階を島の古い漁具や民具、昔の写真などの展示室に、2階を映画上映などができるスペースに改造し、飛島の文化拠点「島のミュージアム 潤(にま)」としてオープンしました。
- ・島の若者らで作る「合同会社とびしま」は、空家になっていた食堂を借りて、農水産物加工場として整備しています。島のおばあちゃんたちの指導を受け、みんなでアイデアを出し合って商品開発に取り組み、今年4月から本格稼働させる予定です。



自分たちの手で民宿を展示室に改造中

このように、さまざまなグループや団体が次々と新しいチャレンジを続けている飛島。これらの取り組みが、地域のみんなまで共有する未来の飛島の姿に向かうステップになるように調整し、協力体制を整えていく役割を担っているのが「とびしま未来協議会」です。この協議会の存在によって、飛島の進化が加速されているように思います。

上関町全体、あるいは、町内の各地区にも、このような仕組みを取り入れ、住民の声を聞きながら、外部からの協力者も巻き込んで、地域づくりを進めていくことが望まれます。

(参考)「Tobishima.info」(飛島の総合情報サイト)
<http://tobishima.info/>

◎「わいわいタイムス」2月号は2月2日(日)発行予定です。